

歯科衛生学科

実習・実技等の取組状況①

<取組例 1>

授業科目名	臨床・臨地実習Ⅰ	授業時数又は単位数	8単位
実施期間	2学年11月～3月のうち52日間（週4日・1日7時間として）		
実習・演習等の目的及び概要	指定規則に定める教授要綱に基づき学校内で学んだ知識・技術を担当の歯科医師および歯科衛生士の指導のもと、歯科臨床や地域保健等の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うことを目的とする。		
企業等との連携の基本方針	企業（医療機関）等との連携により、その要請等を十分に活かしつつ実習・演習等を行い、歯科衛生士業務に必要な理論と実践を結びつけて理解し、実践的かつ専門的な能力を育成する。		
企業等との連携内容	学内講義と実習での成果を基にした、企業等（歯科医院等）における診療介助業務（感染予防対策、患者誘導、コミュニケーション、治療の流れに関する理解など）や歯科診療補助業務（各治療の補助）に関する実習・演習等の実施。		
学修成果の評価方法	実習態度・出席状況・実習日誌の提出に関する10項目（身なり、コミュニケーション、知識・技術、積極性、責任感、向上心など）についての5段階での採点と総評から評価を行う。		
連携する企業等	いわま歯科クリニック、ぱんだ歯科、なみき通り歯科、さとう歯科医院、名古屋市立大学病院、津島市民病院など		

歯科衛生学科

実習・実技等の取組状況②

<取組例 2>

授業科目名	臨床・臨地実習Ⅱ	授業時数又は単位数	12単位
実施期間	3学年4月～10月のうち78日間（週4日・1日7時間として）		
実習・演習等の目的及び概要	指定規則に定める教授要綱に基づき学校内で学んだ知識・技術を担当の歯科医師および歯科衛生士の指導のもと、歯科臨床や地域保健等の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うことを目的とする。		
企業等との連携の基本方針	企業等との連携により、その要請等を十分に活かしつつ実習・演習等を行い、歯科衛生士業務に必要なとなる理論と実践を結び付けて理解し、実践的かつ専門的な能力を育成する。		
企業等との連携内容	学内講義と実習での成果を基にした、企業等（歯科医院、病院等）における診療介助業務（感染予防対策、患者誘導、コミュニケーション、治療の流れに関する理解など）や歯科診療補助業務（各治療の補助）、歯科予防処置業務、歯科保健指導業務に関する実習・演習等の実施。		
学修成果の評価方法	実習態度・出席状況・実習日誌の提出に関する10項目（身なり、コミュニケーション、知識・技術、積極性、責任感、向上心など）についての5段階での採点と総評から評価を行う。		
連携する企業等	医療法人清雅会シバタ歯科、いわつか歯科クリニック、にわ歯科、助光デンタルクリニック、小島歯科、医療法人清翔会エスカ歯科矯正歯科、港スワン歯科矯正歯科、名古屋大学医学部附属病院など		